落とし込みの作法

釣れない時こそ、細かい作業を正確に繰り返し「時と場所」をつかむ。

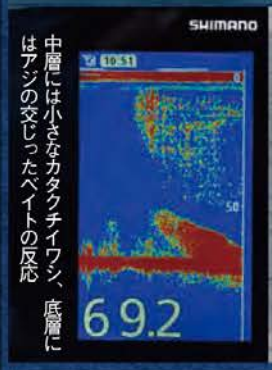
アタリからヤリトリまで

しっかり食い込ませたら竿を支えながら電動で巻き上げる

ドラグを強く締めているので竿に荷重が加わる

長く粘り強い「舳」の特性を生かして竿を素早く立て、カーブの頂点を胸の高さに。この体勢でヤリトリして魚を浮かせる

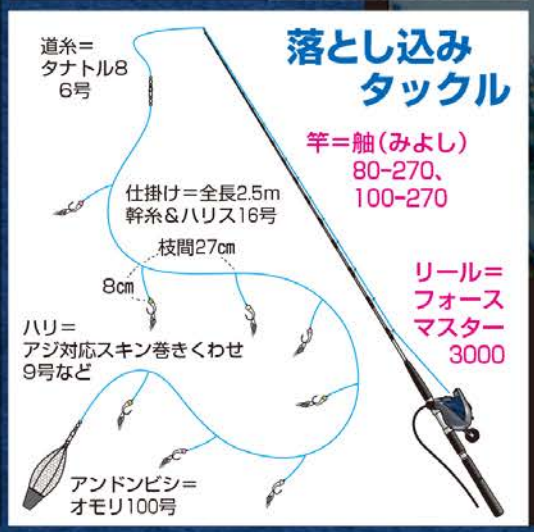
アジをエサにする時はスキンやパールなど、食わせる仕様のハリが効果的



中層には小さなカタクチイワシ、底層にはアジの交じったベイトの反応

スキン巻きのハリを配した落とし込みサビキの下にアンドンビシを接続、海底から3メートルまで上げつつアミコマセをまき、下ろしながらアジを誘う

落とし込みタックル



れると、自身の読み＝勘と、画面＝魚群のタイミングが合ったことになる。

そして掛かったアジが追われるのか、追われないのか……。

「釣れないときは、いつ訪れるか分からない、釣れる『時と場所』をつかむために、釣れているときより一生懸命考えます。アタリがないときの落とし込みは、マニアにはたまらないものがありますね」

そして沖揚がり1時間前、水深100メートル、潮の流れが複雑な斜面のポイントで、その「時と場所」がきた。

掛けたアジが暴れる間もなく食われ、舳100－270の穂先が海面目指して突っ込んでいく。高橋さんは舳のフロントグリップを保持しつつフォースマスター13000のテクニカルレバーを倒す。

ドラグは手で引っ張っても道糸が出ないほど強い。当然、巻き上げるとともに舳はきつい弧を描くが、舳ならではの長さと粘りにより、引っ張り合っ

※まきえ釣り許可船にて、まきえ釣り禁止区域外において撮影しています。

高橋さんのヤリトリは右手でリールをホールドし、左手でテクニカルレバーやドラグを調整していく

▲このホウボウが食ってきた次の場所で時合が訪れた
▶落とし込み仕掛けは掛けるまでは合理的だが、掛けてからは切れやすく、取込みも難しく、釣り人に不利な要素が多い。だからこそ面白い

【舳 100-270＆80-270】

◎「舳の特長は曲がっていくけど粘り強いこと。強いドラグで魚を根から離そうとするとき、竿がしっかりと長い距離を曲がり込むことによって人への負担、魚への負担を減らし、魚とケンカせずに竿を起こして上げることができます。落とし込みではビーストマスター落し込み、アルシエラ落し込み、そして今回のような低水温期などには舳と、使い分けています（高橋哲也）」

●SPEC　全長2.7m、2本継ぎ、仕舞寸法138.5cm、自重325g、先径2.1mm、オモリ負荷80～150号（60～120）、カーボン含有率42%（43.4）＊（　）は80-270の仕様